

# 今日の要点『文化総復習』

## 1] 古代西洋史

### 1)ギリシア文化

特色	◎人間中心の合理的な文化		
文学	叙事詩	ホメロス	『イリアス』『オデュッセイア』
		ヘシオドス	『労働と日々』
	叙情詩	サッフォー	女性詩人
	悲劇	アイスキュロス	
		ソフォクレス	
		エウリピデス	
喜劇	アリストファネス	『女の平和』『女の議会』	
哲学	自然哲学	ターレス	万物の根源を水とする
		ピタゴラス	万物の根源を数とする
		ヘラクレイトス	万物の根源を火とする「万物は流転する」
		デモクリトス	万物の根源を原子とする
		ヒポクラテス	医学
	ソフィスト	プロタゴラス	真理の主観性を説く「人間は万物の尺度」
	アテネ哲学	ソクラテス	客観的真理を追究「無知の知」を説く
		プラトン	イデア論『国家論』
		アリストテレス	アレクサンドロス大王の家庭教師
歴史	歴史学	ヘロドトス	ペルシア戦争について
		トゥキディデス	ペロポネソス戦争について
美術	彫刻	フェイディアス	パルテノン神殿
	建築様式	ドーリア式	(初期)太く短く質素な柱 パルテノン神殿
		イオニア式	(中期)上品で優雅
		コリント式	(後期)複雑で細長く繊細

## 2) ヘレニズム文化

特色	◎ギリシア・オリエント文化の融合	
	◎ポリス崩壊による世界市民主義(コスモポリタニズム)	
	◎個人の幸福を目指す個人主義	
	◎自然科学の発達	
	◎アレクサンドリアなどが文化の中心地	
	◎インドのガンダーラ美術、中国の石窟、日本の正倉院、法隆寺に影響	
自然科学	エウクレイデス	(ユークリッド)幾何学の研究
	アルキメデス	浮力、てこの原理
	アリストタルコス	地球の自転と公転説
	エラステネス	地球球体説、地球の自転
	ムセイオン	アレクサンドリアの王立研究所のこと
哲学	ゼノン	ストア派の代表 禁欲主義 セネカ、マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝に影響
	エピクロス	エピクロス派の代表 快楽主義
美術	ミロのビーナス、ラオコーンの群像	

### 3)ローマの文化

特色	●ヘレニズム文化の継承 ●法律・建築などの実用面における独自性	
文学	キケロ	雄弁家・政治家。カエサルの天敵。
	ヴェルギリウス	ローマ建国の叙事詩『アエネイス』
	ホラティウス	ギリシア文学『叙情詩集』
哲学	セネカ	ネロ帝の師。自殺を強要される。
	マルクス＝ アウレリウス＝ アントニヌス	「哲人皇帝」、『自省録』、ストア派
地歴	ポリビオス	政体循環史観／『ローマ史』
	ユリウス＝ カエサル	『ガリア戦記』
	ストラボン	『地理誌』
	リヴィウス	『ローマ建国史』
	プルタルコス	『対比列伝』
	タキトゥス	『ゲルマニア』
自然科学	プリニウス	『博物誌』(百科事典)
	プトレマイオス	地球中心の天動説
	ユリウス＝ カエサル	ユリウス暦制定(エジプト太陽暦を改良)
宗教	アウグスティヌス	『神の国』、『告白録』(マニ教からの回心)
土木	コロッセウム・ガール水道橋・凱旋門・公共浴場	
	(アーチ・円蓋の使用が特色)	

## 2 中国史

### 1) 諸子百家の活躍

…各国の富国強兵策の中で有能人材の登用

◎各国で君主権の強化→官僚制の整備→実力万能主義時代→諸子百家の活動

学派	人物	主張
儒家	孔子	仁と礼を根底とする理想国家。「論語」
	孟子	性善説。「孟子」
	荀子	性悪説。
道家	老子	無為自然
	莊子	
法家	商鞅	秦の孝公の下で変法改革
	韓非	法家を完成
	李斯	秦の丞相。法治主義を実践。焚書・坑儒を行う。
墨家	墨子	兼愛説
陰陽家	—	陰陽五行説
縦横家	蘇秦	同盟して秦と対抗する合従策を主張。
	張儀	秦と同盟を結ぶ連衡策を主張。
他に兵家、名家、農家		

### ☆四書五経

[五経]…易経、書経、詩経(最古の詩集)、礼記、春秋(魯の年代記、編年体)

[四書]…大学、中庸、論語、孟子

cf; 編年体(年月を追って編集)と紀伝体(項目ごとに分類して編集)

### ☆その他文化

…屈原らによる詩集;「楚辞」

## 2)南北朝の文化

### ◎ 文化

・儒教は全く振るわず、仏教や老荘思想がはやる。南朝では、貴族中心の華やかな文化。

#### ① 文学

◎ 詩・・・陶淵明(東晋の田園詩人)

◎ 詩文・・・昭明太子『文選』(梁)

#### ② 美術

◎ 絵画・・・顧愷之(東晋の画聖)

◎ 書道・・・王羲之

#### ③ 仏教

◎ 仏図澄・・・亀慈の人。布教。

◎ 鳩摩羅什・・・亀慈の人。仏典を漢訳。

◎ 達磨・・・禅宗僧

◎ 法顕・・・東晋の人。渡印(行きは陸路、帰りは海路)。『仏国記』

cf; 中国の石窟寺院

・ 敦煌

・ 雲崗・・・平城近郊

・ 竜門・・・洛陽近郊

#### ④ 道教

◎ 清談・・・知識人たちの老荘思想の語り合い。『竹林の七賢』

◎ 寇謙之・・・道教の成立 ← 大武帝の保護

### 3)唐の文化

特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長安＝国際的文化都市</li> <li>● 東アジア文化圏の形成</li> <li>● 貴族文化の成長</li> </ul>
文学	<p>[詩文]</p> <p>○李白…詩仙    ○杜甫…詩聖    ○王維</p> <p>[散文]</p> <p>○韓愈、柳宗元</p>
絵画	○王維…山水画    ○吳道玄
書道	○顔真卿
儒学	○孔穎達…「五経正義」、訓詁学(解釈の統一)

#### ☆宗教

##### 1. 三夷教

- ①ゾロアスター教 → \_\_\_\_\_ 教
- ②ネストリウス派キリスト教 → \_\_\_\_\_ 教
- ③マニ教(…ゾロアスター教＋キリスト教＋仏教) → 摩尼教

##### 2. その他

- ①イスラム教 → \_\_\_\_\_ 教。南海貿易で栄えた都市が中心。
- ② \_\_\_\_\_ 宗…念仏仏教

#### 4) 宋の文化

特色	●民族(漢民族)的 ●士大夫と庶民の文化	
歴史	司馬光	『資治通鑑』 <編年体>
美術	[院体画]	徽宗が代表的、北宋画
	[文人画]	南宋画。
工芸	青磁、白磁 景德鎮などで生産	
文学	欧陽脩、蘇軾、王安石	
	宋词が発展	
宗教	[仏教]	禅宗(士大夫)、浄土宗(庶民)
	[全真教]	王重陽が儒・仏・道教を融合(金で発展)
科学	活字印刷、火薬、羅針盤	

#### 儒教

時代	人物	主著・内容
漢・唐	鄭玄	訓詁学の確立
	孔穎達	「五経正義」
	●五経重視 ●文字解釈重要 ●清の考証学へ	
宋～	周敦頤	「太極図説」
	朱熹	「四書集注」 性即理、格物致知 <b>朱子学</b> を大成
	陸九淵	心即理、唯心論 → <b>陽明学</b> へ
	●四書重視	

#### c) その他社会

- ① 江南の発展 → 資料へ
- ② お茶の流行

## 5)元の文化

特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>● モンゴル人第一主義 = 漢民族文化(中国文化)軽視 →公用語はモンゴル語 パスパ文字を使用</li> <li>● 儒学は不振 ● 東西文化の交流</li> </ul>
宗教	ラマ教(チベット仏教)を保護
科学	授時暦…郭守敬がイスラム天文学を参考に考案
文学	元曲…歌としぐさとせりふの歌劇 eg:「西廂記」、「琵琶記」 口語小説の発展…「水滸伝」の原型

### 東西交流

◎ 駅伝制( )の整備

人物	出身国	
プラノ=カルピニ	伊	教皇インノケンティウス4世の使節。カラコルム到着。
ルブルック	仏	仏王ルイ9世の使者。フランチェスコ派修道士。 モンケ=ハンに謁見
モンテ=コルヴィノ	伊	教皇の命令で大都へ。布教活動を行う。
マルコ=ポーロ	伊	ヴェネチア出身。フビライに仕える。「世界の記述」 cf; 帰国後、ジェノバとの戦いに敗れる。
イブン=バットウータ	モロッコ	世界各地を経て元末の大都に至る。「三大陸周遊記」



## 6) 明の文化

特色	●国家的編纂事業 ●実践を重んじる陽明学 ●庶民文化		
編纂	「四書大全」	朱熹の「四書集注」を元に。永楽帝の命令により編纂。	
	「五経大全」	孔穎達の「五経正義」を元に。永楽帝の命令により編纂。	
	「永楽大典」	古今の図書を収集・分類永楽帝の命令により編纂。	
儒学	王陽明	南宋の陸九淵を継承。知行合一。心即理。実践を重視。 →陽明学に発展	
	李贄	陽明学左派。	
実学	「本草綱目」	李時珍	薬物本
	「農政全書」	徐光啓	総合農業書。著者は宰相。
	「天工開物」	宋応星	産業技術を纏める。
文学	「西遊記」	玄奘の空想小説。	
	「金瓶梅」	腐敗した社会の実情を描く。	
	「水滸伝」	北宋末の梁山泊について。	
	「三国志演義」	三国時代の歴史物語。	

### e) 宣教師の活動

- ①マテオ＝リッチ(伊)・・・「幾何原本」や世界地図「坤輿万国全図」  
☆「坤輿万国全図」にはすでに新大陸も描かれていた。
- ②アダム＝シャル(独)・・・大砲鑄造

## 7) 清の文化

編纂事業	『康熙字典』	漢字辞書(康熙帝)
	『古今圖書集成』	百科辞書(雍正帝)
	『四庫全書』	重要書籍を分類(乾隆帝)
儒学	考証学	実証主義的文献学
		黄宗羲
		顧炎武
		錢大昕
	公羊学	実践的な経世致用の学
		康有為
文学	紅樓夢	満州貴族の家庭物語
	儒林外史	似非学者たちについて
陶磁器	染付	青色顔料のコバルトを使用
	赤絵	五色使用
建物	円明園	乾隆帝期に建設。ヴェルサイユ宮殿に模している。 アロー戦争時に破壊される。

### ☆ 西洋人の活動

- ① フェルビースト ……大砲鑄造
- ② ブーヴェ ……『皇輿全覽図』
- ③ カスティリオーネ……西洋画法、円明園の設計

### ③ イスラム文化

特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ヘレニズム・ペルシア・インドなどの文化遺産を取り入れ独自の文化を形成</li> <li>● バグダード、コルドバ、カイロを中心とした都市文明</li> </ul>	
神学	カザーリー	スンナ神学とスフィズムを融合
法学	イスラム法＝シャリーア	
歴史学	イブン＝ハルドゥーン	『世界史序説』
哲学	イブン＝ルシュド	アリストテレス哲学の研究 『医学大全』(12C、ムワッヒド朝)
医学	イブン＝シーナー	『医学典範』(10～11C、サーマーン朝)
数学	アラビア数字	
化学	錬金術の研究	
地理学	イブン＝バットゥータ	『三大陸周遊記』(モロッコ)
文学	フィールドウシー	『シャー＝ナーメ(王の書)』(ガズナ朝)
	オマル＝ハイヤーム	『ルバイヤート』(セルジューク朝)
	ラシード＝ウッディーン カザン＝ハン	『集史』(イル＝ハン国) カザン＝ハンの下で宰相を務める
研究機関	アズハル大学(カイロ)	
	ニザーミーヤ学院(セルジューク朝)	
建築・美術	ドーム・ミナレット(尖塔)によるモスク アラベスク(幾何学模様)、細密画(ミニアチュール) アルハンブラ宮殿、岩のドーム(エルサレムのモスク)	

4 中世欧州文化 ← イスラム教の影響

神学	教父哲学	アウグスティヌス	ヒッポの司教 「神の国」、「告白録」
	スコラ哲学	アンセルムス	信仰>理性 (実在論)/イギリス
		アベラール	理性>信仰 (唯名論)/フランス
		ロジャー=ベーコン	経験重視/イギリス
		トマス=アキナス	スコラ哲学を大成。「神学大全」
		ウイリアム=オッカム	理性と信仰を区別 (唯名論)/イギリス
	アルクイン		カロリング=ルネサンス。カール大帝によってイギリスからアーヘンに呼ばれる。
文学	騎士道物語	『ローランの歌』	カール大帝/フランス
		『アーサー王物語』	ケルト人の英雄物語/イギリス
	民族叙事詩	『ニーベルゲンの歌』	英雄ジークフリット/ドイツ
建物	ビザンツ様式	セント=ソフィア大聖堂	モザイク壁画、円屋根
		サン=ヴィターレ聖堂	
	ロマネスク様式	ピサの斜塔	(~12C)半円形アーチ、重厚
		クリュニー修道院	
	ゴシック様式	ケルン大聖堂	(13C~)尖頭、ステンドグラス、崇高
		ノートルダム大聖堂	
		シャルトル大聖堂	
カンタベリ大聖堂			
大学	神学	オクスフォード大学	イギリス
		パリ大学	フランス
	医学	サレルノ大学	南イタリア
	法学	ボローニャ大学	北イタリア
	その他	ケンブリッジ大学	イギリス

5 ルネサンスの内容の続き

	文学	美術	思想	科学
イタリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンテ</li> <li>『神曲』</li> <li>…トスカナ語</li> <li>・ペトラルカ</li> <li>人文主義詩人</li> <li>・ボッカチオ</li> <li>『デカメロン』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッティチェリ</li> <li>『ヴィーナスの誕生』 『春』</li> <li>・レオナルド=ダ=ヴィンチ</li> <li>『最後の晚餐』</li> <li>『モナリザ』</li> <li>・ミケランジェロ</li> <li>『ダヴィデ』 『最後の審判』</li> <li>システィナ大聖堂の壁画</li> <li>・ラファエロ</li> <li>『大公の聖母』 聖母画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マキアヴェリ</li> <li>近代政治学の祖</li> <li>『君主論』</li> <li>→イタリア戦争に対して統一と名君を主張</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トスカネリ</li> <li>地球球体説</li> <li>・コペルニクス</li> <li>(ポーランド人)</li> <li>地動説</li> <li>・ガリレオ=ガリレイ</li> <li>地動説を実証</li> <li>『天文対話』</li> </ul>
フランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラブレー</li> <li>『ガルガンチュアとパンタグリユエルの物語』</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・モンテニュー</li> <li>『随想録』</li> </ul>	
ネーデルランド		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブリューゲル</li> <li>農民画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エラスムス</li> <li>『愚神礼賛』</li> <li>…聖職者・王侯の悪徳、宗教改革に影響</li> </ul>	
スペイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セルバンテス</li> <li>『ドン=キホーテ』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エル=グレコ</li> <li>宗教画</li> <li>・ベラスケス</li> <li>肖像画、宮廷画家</li> </ul>		
ドイツ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・デューラー</li> <li>『四使徒』</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーテンベルク</li> <li>活版印刷術</li> <li>→聖書の普及</li> <li>・ケプラー</li> <li>惑星運行の法則</li> </ul>
イギリス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョーサー</li> <li>『カンタベリー物語』</li> <li>・シェークスピア</li> <li>『ヴェニスの人』</li> <li>『ハムレット』</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・トマスモア</li> <li>『ユートピア』</li> <li>・フランシス=ベーコン</li> <li>近代哲学の祖</li> <li>イギリス経験論</li> <li>帰納法</li> </ul>	

6 絶対主義時代の文化

a) 芸術・文学

● バロック式・・・豪壮・華麗 ● ロココ式・・・繊細・優美				
美術	バロック式	エル＝グレコ	西	『受胎告知』
		ルーベンス	蘭	官能的 『レウキッポスの娘たちの掠奪』
		ファン＝ダイク	蘭	チャールズ1世の宮廷画家 肖像画
		ベラスケス	西	肖像画 風景画 『ブレタの開場』
		レンブラント	蘭	市民生活が題材 『夜警』
	ロココ式	ワトー	仏	雅宴画
音楽	バロック	バッハ	独	近代音楽の創立者
		ヘンデル	独	バロック音楽
	古典派	モーツァルト	奥	交響曲 歌劇
文学	古典主義	コルネイユ	仏	古典悲劇
		モリエール	仏	古典喜劇
		ラシーヌ	仏	古典悲劇 ルイ14世に仕える
	ピューリタン文学	ミルトン	英	『失樂園』
	風刺文学	デフォー	英	『ロビンソン＝クルーソー』
		スウィフト	英	『ガリバー旅行記』
建築	バロック式	ヴェルサイユ宮殿	仏	ルイ14世が建設
	ロココ式	サン＝スーシ宮殿	普	フリードリヒ大王が建設

b) 思想・科学

哲学	イギリス経験論	● 経験を重視 ● 帰納法		
		F＝ベーコン	英	「知は力なり」『新オルガヌム』
		ロック	英	
	大陸合理論	● 理性を重視 ● 演繹法		
		デカルト	仏	「我思う、ゆえに我あり」『方法叙説』
		パスカル	仏	「人間は考える葦」『パンセ』
		スピノザ	蘭	ユダヤ系 『エチカ』
		ライプニッツ	独	微積分法の発見

政治思想	王権神授説	●王権は神から授けられたもの ●絶対王政を正当化		
		ボッシュエ	仏	ルイ14世の絶対主義を正当化
	自然法	●自然法とは人間が生まれながらにして与えられた永久不変の法であり、他の法に優越する。		
		グロティウス	蘭	国際法の父『海洋自由論』『戦争と平和の法』
	社会契約説	●人民の契約によって、人間の自然な状態から社会・国家が成立		
		●王権神授説を非難する市民階級の政治思想となる		
		ホブズ	英	『リヴァイアサン』 絶対君主を擁護
	啓蒙思想 (百科全書派)	ロック	英	『市民政府二論』 名誉革命を絶対化
		●理性を重要視し、全ての伝統的偏見・慣習・不合理な社会制度を打破しようとした思想		
		モンテスキュー	仏	三権分立を唱える『法の精神』
ヴォルテール		仏	『哲学書簡』 啓蒙専制君主と親交	
ルソー		仏	人民主権を主張『社会契約論』『エミール』	
デイドロ		仏	『百科全書』を編集	
ダランベール		仏		
経済思想	重商主義	●絶対王政を維持するための統制的経済政策		
		●重金主義、貿易差額主義、産業保護主義から成る		
	トマス＝マン	英	重金主義を非難し、貿易差額主義を主張	
	重農主義	●富の源泉を農業生産とする		
		ケネー	仏	『経済表』
	テュルゴー	仏	大革命前の財務長官	
古典派	●自由放任主義、自由貿易			
	アダム＝スミス	英	『諸国民の富』	
自然科学	ハーヴェー	英	血液の循環	
	ボイル	英	気体の膨張 ボイルの法則	
	ホイヘンス	蘭	光の波動説 振り子時計を発明	
	ニュートン	英	万有引力の法則 『プリンキピア』 微積分法	
	フランクリン	米	独立戦争の駐仏大使 避雷針の開発	
	リンネ	瑞	植物分類学	
	ビュフォン	仏	『博物誌』	
	キュビエ	仏	動物分類学	
	ラヴォアジエ	仏	質量不変の法則 大革命で処刑	
	ヴォルタ	伊	電池の発明	
	ジェンナー	英	種痘法を発明	

7 18世紀の文化

<芸術>

文学	古典主義	●ローマ・ギリシア文化の理想化		
		ゲーテ	独	「若きウェルテルの悩み」
		シラー	独	「ヴィルヘルム＝テル」
	ロマン主義	●反啓蒙主義 ●人間の個性と感情 ●自由主義・国民主義運動		
		ノヴァーリス	独	「青い花」
		グリム兄弟	独	「グリム童話」
		ハイネ	独	ユダヤ系革命詩人
		ユーゴ	仏	「レ＝ミゼラブル」
		アンデルセン	デ	童話
		バイロン	英	ギリシア独立戦争に参戦
		プーシキン	露	「大尉の娘」(プガチョフの乱を題材)
	写実主義	●反ロマン主義 ●人間・社会をありのままに表現		
		スタンダール	仏	「赤と黒」
		バルザック	仏	
		フロベール	仏	「ボヴァリー夫人」
		ディケンズ	英	
		ドストエフスキー	露	「罪と罰」
	自然主義	●現実社会(資本主義社会)の矛盾を表す ●自然科学的観察		
		ゾラ	仏	ドレフェス事件 「居酒屋」
		モーパッサン	仏	「女の一生」
		イプセン	ノ	「人形の家」
		トゥルゲーネフ	露	「父と子」
		トルストイ	露	「戦争と平和」
美術	古典主義	ダヴィド	仏	ナポレオン1世の宮廷画家
	ロマン主義	ドラクロワ	仏	「シオの虐殺」 「民衆を導く自由の女神」
	自然主義	ミレー	仏	農民生活
		ゴヤ	西	
	写実主義	クールベ	仏	「石割り」 パリ＝コミューンで活躍
	印象派	マネ	仏	対象物からの直接的印象



		モネ	仏	原色による明るさ
		ルノワール	仏	
	後期 印象派	セザンヌ	仏	
		ゴーガン	仏	
		ゴッホ	蘭	
音楽	古典派	ベートーヴェン	独	
	ロマン主義	シューベルト	奥	「交響曲」
		ショパン	ポ	ピアノの詩人
		ワグナー	独	

<哲学・思想など>

哲学	カント	独	合理論と経験論を統合し、ドイツ観念論哲学
	フィヒテ	独	ベルリン大学学長 「ドイツ国民に告ぐ」
	ヘーゲル	独	弁証法哲学
	コント	仏	実証主義哲学
	ベンサム	英	「最大多数の最大幸福」 功利主義
	スペンサー	英	進化論を哲学に導入
	キルケゴール	デ	実存主義
	ニーチェ	英	超人について
経済思想	アダム＝スミス	英	「諸国民の富」(「国富論」)
	リカード	英	「経済学および課税の原理」
	マルサス	英	「人口論」
	リスト	独	ドイツ関税同盟(保護主義貿易)を主張
社会主義思想	バブーフ	仏	総裁政府打倒の陰謀
	オーウェン	英	ニューハーミニー村 (空想的社会主義)
	サン＝シモン	仏	産業社会 (空想的社会主義)
	フーリエ	仏	「ファランジュ」 (空想的社会主義)
	ルイ＝ブラン	仏	国立工場 (空想的社会主義)
	プルードン	仏	無政府主義
	ブランキ	仏	暴力革命とプロレタリアート独裁
	マルクス	独	「共産党宣言」「資本論」 第1インターナショナル (科学的社会主義)
	エンゲルス	独	「資本論」(マルクスと共著) (科学的社会主義)

歴史	ランケ	独	ロマン主義による自国の研究 国家統一の悲願 「世界史概観」
	ギゾー	仏	7月王政の文相・首相
法学	サヴィニー	独	歴史法学

<科学>

ファラデー	英	電磁誘導の法則
マイヤー	独	エネルギー保存の法則
ヘルムホルツ	独	エネルギー保存の法則
ダーウィン	英	「種の起源」
メンデル	奥	遺伝の法則
パストゥール	仏	狂犬病予防
コッホ	独	コレラ菌発見 ツベルクリン開発
モールス	米	電信機発明
ベル	米	電話機発明
マルコーニ	伊	無線送信を開発
エディソン	米	蓄音機／白熱球／映画
ダイムラー	独	自動車発明
ライト兄弟	米	飛行機発明

<探検>

タスマン	蘭	オーストラリア南方やニュージーランド発見
クック	英	オーストラリア東岸など太平洋地域を探検
リヴィングストン	英	ナイル川の水源調査
スタンリー	米	コンゴ探検
ピアリ	米	北極点に到達
アムンゼン	ノ	南極点に到達

## 8 社会主義思想

### ① 空想的社会主義

オーウェン	英	ニューハーミニー村
サン＝シモン	仏	産業社会
フーリエ	仏	「ファランジュ」
ルイ＝ブラン	仏	国立工場

### ② 無政府主義

…プルードン、バクーニン、クロポトキン

### ③ 科学的社会主義

マルクス	独	「共産党宣言」「資本論」 第1インターナショナル
エンゲルス	独	「資本論」(マルクスと共著)

### ④ 国際社会主義運動

組織	第1インターナショナル	第2インターナショナル	第3インターナショナル
年	1864年	1889年	1919年
本部	ロンドン	パリ	モスクワ
中心		ドイツ社会民主党	ロシア共産党
特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マルクス派とプルードン派の対立</li> <li>●パリコムニオン成立により解散</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●無政府主義を廃し、マルクス派が主導</li> <li>●各国政党が1次大戦を支持し、崩壊</li> <li>●仏ではサンディカリスム(労働組合を指向)が派生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●別称、コミンテルン</li> <li>●人民戦線戦術</li> </ul>

cf;ロシア社会民主労働党

### ⑤ 社会民主主義

…暴力革命を否定し、議会制民主主義による社会改良

- ドイツ社民党、\_\_\_\_\_の\_\_\_\_\_主義
- イギリス\_\_\_\_\_協会(ウェット夫妻、後の労働党)